

地域おこし協力隊通信 (No. 15) 種子島の謎の人物

種子島の謎の人物について少し考えてみました。それは「下田嘉太郎」彼は下田地域に実在した人物で、知る人ぞ知るアッチャメ踊りの歌詞に登場する人物です。ちなみに、明治維新の頃から伝承されているアッチャメ踊りは中種子町の無形民俗文化財。アッチャメとは即興的に踊る踊りとのこと。もともとは琉球の歌だということです。

さて、この下田嘉太郎がなぜ歌詞の中に登場するのか、ずっと気になっていました。歴史に名を残す偉人だったのでしようか。その詩の一部をあげてみます。

「下田嘉太郎は船乗りややめたよ 佐多の岬で船かえすよ」

「下田嘉太郎は高い帆まくな風は情けはかけやせぬ」

なぜ下田嘉太郎なのか、その答えの一部は「種子島の民族Ⅱ（下野敏見著）」にありました。

下田嘉太郎は1840年頃の生まれ。幼い頃から人に好かれる人物でしたが、生涯独身だったそうです。嘉太郎の父は廻船業を営み、鹿児島をはじめ大阪まで展開していたとのことですが、なぜか長男の嘉太郎は馬の鞍を作ることを生業にしていま

した。当時、下田の港から野間までの道を馬で荷物を運んでいたということから、嘉太郎の鞍づくりは、需要があったと思われる。ちなみに弟の嘉市は船大工でしたが、佐多岬沖で亡くなったようです。

どうやら、個人的に勝手に解釈をすると、下田嘉太郎が作る鞍は定評があり、性格も良く多くの人が彼を好いていた。ある日、弟の嘉市が海で帰らぬ人となり、情け深い嘉太郎は毎日悲しみ、焼酎に溺れ、自暴自棄になってしまふ。アッチャメはそんな様子の嘉太郎を愛ある感情で描写したのではないのでしょうか。

私の下田嘉太郎、アッチャメとの出会いは、役員職員の結婚披露宴で初めて拝見させていただいたとき。以来、ずっと気になって、ついにはKKK鹿兒島放送のふるさとCM大賞2017にて、中種子町連合青年団の皆さんの歌と踊りで映像化させていただきました。

参加賞をいただき、KKKで10回放送してもらえます。少しは嘉市、嘉太郎の供養になったでしょうか。

(山村)

地震による大津波を想定

南界・下目地区防災訓練

南界校区下目地区を対象にした防災訓練が11月5日に行われ、地区の住民と関係機関が訓練に参加しました。訓練は、午前6時55分に南海トラフ沿いでマグニチュード7の地震が発生し、種子島で震度7、大津波の可能性ありとの想定で実施。同時刻にモーターサイレンと消防車による避難の呼び掛けが始まると、住民は車に乗り合わせ、次々に南界小へ移動し、ほぼ予定の時間内で避難を済ませました。



避難する住民を誘導する熊野分団員

これまでの功績を高く評価

鎌田勇二郎議長・秋の園遊会へ出席



11月9日、天皇、皇后陛下が主催する「秋の園遊会」に、鎌田勇二郎議長が招待されました。鎌田議長は、全国離島振興市町村議会議長会会長などを務めた功績が高く評価され、招かれたものです。当日は、各界の要人及び功績者約2千人が出席。鎌田議長は「この名誉あるお招きは、中種子町民皆様のご活躍が評価されたもの。町民皆様に感謝申し上げます。」と話していました。